

〔第148回簿記検定試験問題 解答・解説〕

第1問 取引の仕訳を答える問題である。

【解答】

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	130,000	受取手形 当座預金	100,000 30,000
2	買掛金	500,000	売掛金 当座預金	100,000 400,000
3	有価証券	490,000	現金	490,000
4	土地	150,000	現金	15,000
5	借入金 支払利息	730,000 4,000	当座預金	734,000

【解説】

1. 手形の裏書譲渡の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記3級テキスト p.96 ①

- ・商品を仕入れ、 (借) 仕入 130,000
- ・手形の裏書譲渡で、手形を受け取ったときに生じる手形債権が消滅するので、貸方が受取手形になる。
 約束手形を受け取った (借) 受取手形×× (貸) ○ ○ ××
 上記手形を裏書した (借) ○ ○ ×× (貸) 受取手形××
 (貸) 受取手形 100,000
 (貸) 当座預金 30,000
- ・残額は小切手を振り出して支払った。

2. 買掛金と売掛金の相殺消去の仕訳を問う問題である。

- ・買掛金は負債であるから相殺消去したときは借方に記入する
 (借) 買掛金 500,000
- ・売掛金は資産であるから相殺消去したときは貸方に記入する
 (貸) 売掛金 100,000
- ・超過分は小切手を振り出して支払った。
 (貸) 当座預金 400,000

3. 国債を購入したときの仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.100 ①

- ・ 公社債（国債、地方債および社債）や株式を購入した時は有価証券勘定（資産）で処理する。

(借) 有価証券 490,000

- ・ 代金は現金で支払った。

(貸) 現金 490,000

[購入代価の求め方]

<table style="margin: auto;"> <tr> <td style="padding: 2px;">口 数</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black; padding: 2px;">額面金額</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">1 0 0</td> </tr> </table>	口 数	額面金額	1 0 0	× 買入単価	$\frac{¥500,000}{¥100}$	× ¥98 = ¥490,000
口 数						
額面金額						
1 0 0						

4. 営業用に購入した土地の整地費の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.104 ①

- ・ 固定資産は使用することを目的とした資産であるから、それが使用できるまでに要した費用は、固定資産の取得原価になる。

この問題では、整地費は土地を使用できるようにするための費用であるから、支払ったときは土地勘定の借方に記入する。

(借) 土 地 150,000

- ・ 代金は現金で支払った。

(貸) 現金 150,000

5. 借入金の返済の仕訳を問う問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.106 ①

- ・ 借入金は負債であるから、返済したときは借方に記入する。

(借) 借 入 金 730,000

- ・ 元利合計を当座預金口座から返済したことから、利息を支払ったことがわかる。

(借) 支払利息 4,000

[支払利息の計算] $¥730,000 \times 0.02 \times 100 \text{ 日} / 365 \text{ 日} = ¥4,000$

- ・ 当座預金口座から返済した。

(貸) 当座預金 734,000

第2問 資本金勘定と引出金勘定の記帳に関する問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.119 ②

【解答】

①	②	③	④	⑤
引出金	850,000	2,000	仕 入	382,000

[解説] 取引の仕訳

3/15 (借) 引 出 金 300,000 (貸) 普通預金 300,000

※ 所得税は店主の所得に対する税金であるから、資本の減少になる。

6/30 (借) 旅費交通費 2,500 (貸) 仮 払 金 4,500

引出金 2,000

※ 店主の私用による¥2,000 は、資本の減少になる。

10/20 (借) 引 出 金 80,000 (貸) 仕 入 80,000

※ 3分法で記帳しているので貸方は仕入の減少である。商品としないよう注意する。

12/31 a (借) 資 本 金 382,000 (貸) 引 出 金 382,000

※ 決算日に、引出金勘定の残高を資本金勘定に振り替える。

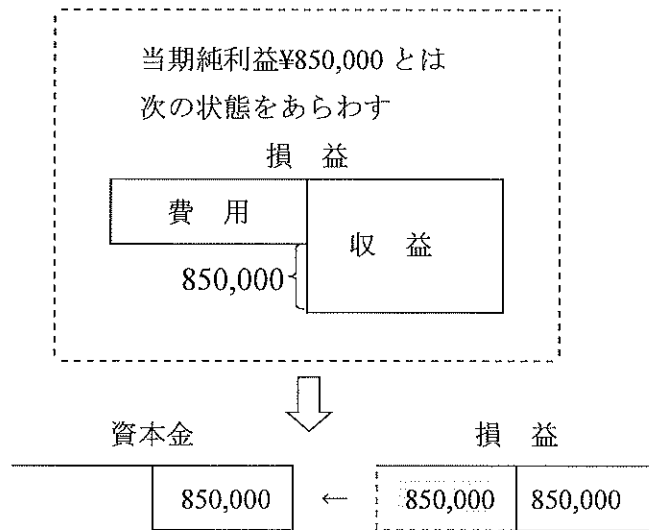
引 出 金			資 本 金	
3/15 300,000	382,000	→	382,000	
6/30 2,000				
10/20 80,000				

b (借) 損 益 850,000 (貸) 資 本 金 850,000

※帳簿決算（帳簿の締め切り手続き）は次のとおりである。新版日商簿記 3 級テキスト p.44 ②

- ① 収益の諸勘定を損益勘定に振り替える
- ② 費用の諸勘定を損益勘定に振り替える
- ③ 損益勘定の残高（当期純損益）を資本金勘定に振り替える

このことから、「当期純利益¥850,000」とは、損益勘定の残高が貸方に¥850,000であることがわかる。



第3問 11月末の残高試算表と12月中の取引から12月末の残高試算表を作成する問題である。

【解答】

残高試算表
平成 29 年 12 月 31 日

借 方	勘 定 科 目	貸 方
393,000	現 金	
711,000	当 座 預 金	
331,000	受 取 手 形	
827,000	売 掛 金	
73,000	繰 越 商 品	
5,000	前 払 金	
1,200,000	備 品	
	支 払 手 形	370,000
	買 掛 金	535,000
	前 受 金	32,000
	所 得 税 預 り 金	7,000
	未 払 金	300,000
	備品減価償却累計額	567,500
	資 本 金	1,717,000
	売 上	2,770,000
1,602,000	仕 入	
2,000	発 送 料	
980,000	給 料	
90,000	支 払 家 賃	
75,000	水 道 光 熱 費	
9,500	(貸 倒 損 失)	
6,298,500		6,298,500

【解説】解答の手順

1. 1 2 月中の諸取引の仕訳を行う。

1 日 (借) 貸倒引当金 500 (貸) 売掛金 10,000
貸倒損失 9,500

※前期の売掛金が貸倒れになったときは、貸倒引当金を取り崩す。ただし、貸倒引当金が不足するときは貸倒損失勘定で処理する。

4 日 (借) 仕入 110,000 (貸) 前払金 15,000
買掛金 95,000

※注文時に支払った手付金は前払金である。

7 日 (借) 所得税預り金 6,000 (貸) 現金 6,000

※所得税の源泉徴収額とは、給料を支払ったときに差し引いた（預かった）従業員の所得税である。

8 日 (借) 受取手形 100,000 (貸) 売上 270,000
前受金 8,000
売掛金 162,000
発送費 2,000 現金 2,000

※・約束手形で回収（受け取った）したときは、手形債権が発生するので、受取手形勘定の借方に記入する。

・注文時に受け取った手付金は前受金である。

・当店負担の発送費は発送費勘定（費用）で処理する。

11 日 (借) 水道光熱費 7,000 (貸) 当座預金 7,000

13 日 (借) 現金 30,000 (貸) 前受金 30,000

15 日 (借) 当座預金 170,000 (貸) 受取手形 170,000

※受け取った約束手形が期日に決済（支払われた）されたときは、手形債権が消滅するので、貸方が受取手形になる。

18 日 (借) 支払家賃 15,000 (貸) 当座預金 15,000

19 日 (借) 買掛金 190,000 (貸) 支払手形 190,000

※約束手形を振り出すと手形債務が発生するので、支払手形勘定（負債）で処理する。

21 日 (借) 給料 100,000 (貸) 所得税預り金 7,000
当座預金 93,000

22 日 (借) 支払手形 200,000 (貸) 当座預金 200,000

25 日 (借) 現金 175,000 (貸) 売掛金 175,000

※他人振出しの小切手は現金として扱う。

27 日 (借) 備品 300,000 (貸) 未払金 300,000

※商品以外のものを購入し、代金は後日支払いとしたときは未払金勘定（負債）で処理する。

29 日 (借) 仕入 92,000 (貸) 買掛金 90,000
現金 2,000

※引取運賃は仕入の原価に参入するので、仕入勘定（費用）で処理する。

第 4 問 起票された伝票から仕訳日計表を作成する問題である。

【解答】

(1) 仕 訳 日 計 表

平成 29 年 12 月 1 日

(2) 出金伝票No. 202 および振替伝票No. 302 で記録された取引において仕入れた商品の金額

借 方	勘 定 科 目	貸 方
22,000	現 金	13,000
90,000	売 掛 金	
	買 掛 金	55,000
	売 上	100,000
	受取手数料	12,000
68,000	仕 入	
180,000		180,000

¥ (63,000)

【解説】 解答の手順

(1) 仕訳日計表の作成

1. 12月1日の伝票を仕訳になおす。

〈入金伝票〉 No. 101	(借) 現 金	10,000	(貸) 売 上	10,000
No. 102	(借) 現 金	12,000	(貸) 受取手数料	12,000
〈出金伝票〉 No. 201	(借) 仕 入	5,000	(貸) 現 金	5,000
No. 202	(借) 仕 入	8,000	(貸) 現 金	8,000
〈振替伝票〉 No. 301	(借) 売 掛 金	90,000	(貸) 売 上	90,000
No. 302	(借) 仕 入	55,000	(貸) 買 掛 金	55,000

2. 上記仕訳をもとに、合計試算表を作成する要領で仕訳日計表を作成する。

【別解】

1. 入金伝票の合計額 (¥22,000) を「現金」の借方に記入する。
2. 出金伝票の合計額 (¥13,000) を「現金」の貸方に記入する。
3. 入金伝票の勘定科目 (売上、受取手数料) と振替伝票の貸方勘定科目 (売上、買掛金) を集計し、仕訳日計表の貸方に記入する。
4. 出金伝票の勘定科目 (仕入) と振替伝票の借方勘定科目 (売掛金、仕入) を集計し、仕訳日計表の借方に記入する。

第5問 貸借対照表と損益計算書を作成する問題である。

新版日商簿記 3 級テキスト p.178,179 ①②

【解答】

貸借対照表
平成 29 年 12 月 31 日

(単位：円)

現金	315,000	買掛金	640,000
普通預金	123,000	未払金	(3,000)
受取手形 (410,000)		借入金	300,000
売掛金 (350,000)		(未払)費用	(7,000)
貸倒引当金 (△ 7,600)	(752,400)	前受収益	(40,000)
商品	(315,000)	資本金	(5,451,801)
(前払)費用	(2,000)	当期純(利益)	(145,600)
建物 (1,000,000)			
減価償却累計額 (△ 220,000)	(780,000)		
備品 (450,000)			
減価償却累計額 (△ 449,999)	(1)		
土地	4,300,000		
	(6,587,401)		(6,587,401)

損益計算書

平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 12 月 31 日まで

(単位：円)

売上原価	(3,940,000)	売上高	4,782,300
給料	(666,300)	受取地代	(480,000)
支払手数料	80,000		
水道光熱費	(82,000)		
通信費	65,000		
旅費交通費	(33,000)		
減価償却費	(100,000)		
貸倒引当金繰入	(2,400)		
支払利息	(8,000)		
固定資産(売却損)	(140,000)		
当期純(利益)	(145,600)		
	(5,262,300)		(5,262,300)

【解説】

未処理事項・決算整理事項

1. 旅費交通費の未記帳

(借) 旅費交通費 3,000 (貸) 未払金 3,000

・未払金¥3,000 は次年度の 1 月に従業員に支払われる。

2. 修正仕訳

新版日商簿記 3 級テキスト p.124

(借) 仮 受 金 180,000 (貸) 車両運搬具 480,000

車両運搬具減価償却累計額 80,000

減 価 償 却 費 80,000

固 定 資 産 売 却 損 140,000

・企業が行った仕訳

(借) 現 金 180,000 (貸) 仮 受 金 480,000

・本来行われるべき仕訳

(借) 現 金 180,000 (貸) 車両運搬具 480,000

車両運搬具減価償却累計額 80,000

減 価 償 却 費 80,000

固 定 資 産 売 却 損 140,000

※減価償却費の計算 $¥480,000 \div 6 \text{年} = ¥80,000$

・修正仕訳 企業が行った仕訳を取り消すための逆仕訳と、本来行われるべき仕訳が求められる修正仕訳になる。

(借) 仮 受 金 180,000 (貸) ~~現 金 480,000~~

(借) ~~現 金 180,000~~ (貸) 車両運搬具 480,000

車両運搬具減価償却累計額 80,000

減 価 償 却 費 80,000

固 定 資 産 売 却 損 140,000

3. 売上原価の計算

新版日商簿記 3 級テキスト p.143 ①

(借) 仕 入 300,000 (貸) 繰越商品 300,000 … 期首商品棚卸高 (残高試算表「繰越商品」)

(借) 繰越商品 315,000 (貸) 仕 入 315,000 … 期末商品棚卸高 (問題文に指示)

4. 減価償却費の計上 (建物)

新版日商簿記 3 級テキスト p.154 ②

(借) 減価償却費 20,000 (貸) 建物減価償却累計額 20,000
 -費用-

※減価償却費の計算 (定額法)

取得原価 耐用年数
 (建物) ¥1,000,000 ÷ 50年 = ¥20,000

5. 備品について (仕訳不要)

耐用年数をむかえたが、そのまま使用し続ける予定なので問題文の指示通り減価償却をおこなわず、次期に繰り越す

6. 貸倒引当金の設定

新版日商簿記 3 級テキスト p.148

(借) 貸倒引当金繰入 2,400 (貸) 貸倒引当金 2,400
 -費用- -受取手形・売掛金の評価勘定-

※ 貸倒引当金繰入額

$$\frac{(\text{¥410,000} + \text{¥350,000})}{\text{受取手形} \quad \text{売掛金}} \times 1\% - \text{¥5,200} = \text{¥2,400}$$
 貸倒引当金残高 (残高試算表)

7. 未払水道光熱費の計上 (費用の見越し)

新版日商簿記 3 級テキスト p.165

(借) 水道光熱費 7,000 (貸) 未払水道光熱費 7,000
 -負債-

B/S には未払費用として計上する

8. 前払利息の計上 (費用の繰延べ)

新版日商簿記 3 級テキスト p.160 ①

(借) 前払利息 2,000 (貸) 支払利息 2,000
 -資産-



B/S には前払費用として計上する

9. 前受地代の計上 (収益の繰延べ)

(借) 受取地代 40,000 (貸) 前受地代 40,000

— 負債 —



B/S には前受収益として計上する

	当 期	来 期
1/1	12/31	1/31
受取地代 ¥520,000		
		地代の前受分 (1 か月分)

※ 前受地代の計算

$$¥520,000 \times \frac{1 \text{ か月}}{13 \text{ か月}} = ¥40,000$$

[貸借対照表・損益計算書作成上の POINT]

貸借対照表

1. 貸倒引当金は受取手形・売掛金から控除する形で記載する。
2. 減価償却累計額は備品や建物などから控除する形で記載する。
3. 繰越商品勘定の残高は「商品」として記載する。
4. 未払水道光熱費は「未払費用」、前払利息は「前払費用」、前受地代は「前受収益」として記載する。

※未払水道光熱費あるいは前払利息で答える問題もあるが、最近では未払費用、前払費用で答える問題が多い。

※費用・収益の見越し、繰延べに関わる勘定科目が資産か負債か正しく理解することが大切である。

損益計算書

1. 仕入勘定の残高は「売上原価」として記載する。
2. 売上勘定の残高は「売上高」として記載する。

最後に当期純利益 ¥ 145,600 が、貸借対照表と損益計算書で一致しているか確かめる。